

## 収支計算書 (2011年4月1日～2012年3月31日)


(単位:千円)

科目	2010年度	2011年度			2012年度		
	実績	計画	実績	対計画達成率	計画	対前年度成長率	
収入	[1]コミュニティファクトリー経営	5,558	8,291	6,846	83%	16,568	242%
	[2]サポーター・寄付事業	61,284	65,415	69,181	106%	85,670	124%
	会費	36,767	42,915	39,484	92%	48,000	122%
	寄付金	19,201	15,400	26,663	173%	25,870	97%
	助成金・補助金等	2,650	1,500	1,770	118%	8,750	494%
	その他(講演会・書籍販売等)	2,666	5,600	1,264	23%	3,050	241%
	[3]IT事業	55,873	25,660	27,200	106%	—	—
	[4]スタディツアー事業	2,026	1,800	936	52%	1,000	107%
	[5]その他(為替差益・雑収入等)	439	—	993	—	—	—
	当期収入合計	125,180	101,166	105,156	104%	103,238	98%

支出	[1]コミュニティファクトリー経営	15,545	20,661	16,055	78%	25,511	159%	
	[2]孤児院支援事業	2,712	4,036	2,795	69%	5,655	202%	
	海外活動費	[3]警察支援事業	3,638	3,745	3,466	93%	4,805	139%
	[4]カンボジア事務局	6,398	5,063	3,299	65%	6,403	194%	
	[5]インド事業	—	—	—	—	12,465	—	
	[6]調査活動	—	5,477	3,745	68%	4,599	123%	
	国内活動費	[7]サポーター・寄付事業	16,808	25,110	17,647	70%	27,443	156%
	[8]IT事業	29,199	19,474	22,580	116%	—	—	
	[9]スタディツアー事業	882	1,400	556	40%	240	43%	
	[10]日本事務局	29,200	17,023	26,862	158%	18,356	68%	
	その他	[11]その他(為替差損・雑損失等)	964	—	42	—	—	—
	[12]租税公課/法人税等	2,447	1,000	1,285	129%	1,000	78%	
当期支出合計	107,793	102,989	94,587	92%	106,477	113%		

収支	当期収支差額	17,387	-1,823	10,569	—	-3,239	-31%
	前期繰越収支差額	31,666	49,053	49,053	100%	59,622	122%
	次期繰越収支差額	49,053	47,230	59,622	126%	56,383	95%

収支計算書、貸借対照表は、会計帳簿の記載金額と一致し、NPO法人かものはしプロジェクトの収支状況および財政状態を正しく示していると認める。

宇野雅幸 

## 貸借対照表 (2012年3月31日時点)

(単位:千円)

科目	金額
現金	1,476
預金	50,168
売掛金	7,700
流動資産	商品 407
製品	106
原材料	2,675
仕掛品	99
その他	633
流動資産合計	63,264
固定資産	建物 228
差入保証金	826
固定資産合計	1,055
資産合計	64,319

(単位:千円)

科目	金額
負債	未払金 2,784
流動負債	前受金 468
預り金	1,444
流動負債合計	4,696
純資産	資本金 500
利益剰余金	59,123
純資産合計	59,623
負債・純資産合計	64,319

## 財務に関する分析

### 2011年度報告

「収入」は1億515万円と目標に対し104%と上回り、「支出」は9,458万円と計画より92%に抑えることができた。結果、「収支」が-182万円の計画であったところ、1,056万円となり、当面の活動を推進するに必要な資金が確保できた。

コミュニティファクトリー経営は、カンボジア国内の売上げに限ると計画以上に好調であったため、前年度比165%に伸びた。一方で、好調な販売に生産が追いつかず、日本側の販売にまで商品を十分にまわすことができなかったため、全体の「収入」としては未達に終わった。

貸借対照表の「売掛金」が多いのは、IT事業の繁忙期が例年2月3月となるためである。

### 中長期的な資金調達方針

事業環境の変化が早い中、今後の中長期的な成長をさせることが難しいと判断したため、赤字に転落する前に、IT事業は2011年度末をもって解散を決定した。安定成長しているサポーター・寄付事業を主な財源として、今後もさらに拡大成長させる。とくに、現状約2,500名のサポーター会員を3年以内に5,000名に拡大させることに注力する。新規財源として、海外での資金調達活動や日本国内での助成金・補助金の獲得、その他の事業の開発について取り組みをおこなう。

### 2012年度計画

「収入」はIT事業の解散を受けて、1億323万円と規模は若干縮小するが、資金調達効率の良いサポーター・寄付事業を成長させることで、より多くの資金を現地に送ることができる。

コミュニティファクトリー経営は、事業拡大により「収入」(前年度比242%)・「支出」(前年度比159%)ともに増加する。結果、赤字幅が改善される。

新たにインドへ支援地域を拡大し、1,246万円の資金投入を行う。

それらにより、-323万円の赤字となる計画だが、2011年度収支の活用により資金繰り上は問題ない。